

- 大洗研究所(南地区)高速実験炉原子炉施設「常陽」の地震・津波等の評価について、資料1-2～1-7のとおり取りまとめた。
- 原子炉設置変更許可申請(平成29年3月30日申請、平成30年10月26日第1回補正申請、令和3年12月2日第2回補正申請)以降、審査会合での議論検討を踏まえて反映した事項を下表に整理した。
- 今後、これらを踏まえて原子炉設置変更許可申請書の補正申請を実施する。

原子炉設置変更許可申請書における項目		申請以降の検討・反映事項 (審査会合での主な議論内容)	資料
地盤	敷地周辺・敷地近傍の地質・地質構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 申請以降に公表された新たな情報について確認し、評価に反映すべき情報があるか確認を行った。その結果、評価に反映すべき新たな情報は無いことを確認した。</li> </ul>	1-2-1 1-2-2
	敷地の地質・地質構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>• M1段丘堆積物と東茨城層群の地層境界の設定根拠について、文献調査、露頭調査、ボーリングコア観察の結果から、M1段丘堆積物と東茨城層群ではその層相が異なっており、その層相の不連続面(不整合面)が、地層の堆積環境の境界となることを確認した。</li> </ul>	1-3
地震		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準応答スペクトルを考慮した地震動(基準地震動<math>S_s-6</math>)の評価について以下の見直しを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 敷地の地震基盤相当面を<math>V_s \geq 2,200\text{m/s}</math>以上となる<math>G.L-1.293\text{km}(V_s=3,052\text{m/s})</math>に設定。</li> <li>➢ 乱数位相の検討に用いる振幅包絡線の経時特性を定めるマグニチュードをM7.0に設定。</li> <li>➢ 敷地の地震観測記録を踏まえた実位相による検討を実施。</li> </ul> </li> </ul>	1-4
基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地盤安定性評価について以下の解析条件の見直しを行い、評価対象施設の基礎地盤が十分な安定性を有していることを確認した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 主冷却機建物周辺地盤の地盤補強方法について、地盤改良工法に見直し。</li> <li>➢ 解析用地盤物性値について、常陽周辺のみ地盤調査結果により設定。</li> <li>➢ 改良地盤について、物性値を現地で実施した試験施工の結果により設定するとともに、品質管理方針を示して確認項目及び基準値を定めた。</li> <li>➢ 解析用地下水位について、保守的な評価となるよう地表面に設定。</li> </ul> </li> </ul>	1-5
津波		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 申請以降に公表された新たな情報として、波源に関するものとして「アウターライズ地震」「房総沖の波源」、また行政機関による津波評価として「内閣府による評価」を確認した。これらの情報を踏まえても津波の波源設定や遡上評価に変更は生じないことを確認した。</li> </ul>	1-6-1 1-6-2
火山	立地評価、影響評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 申請以降に公表された新たな情報として、火山データベースについて中野ほか(2013)のWEB版の更新内容を評価へ反映した。</li> <li>• 敷地内で実施した地質調査において確認された赤城鹿沼テフラについて情報を拡充した。</li> </ul>	1-7-1 1-7-2